

☆紀宝町立相野谷中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

相野谷中学校区では、学校と地域の密接な係わりによって、素朴で優しさのあふれる子どもたちが育ってきました。しかし近年、各家庭の生活スタイルが多様化し、子どもたちが地域の中で自然体験を深めたり、様々な人の生き方に出会ったりする機会が失われつつあります。また、経済的な厳しさ等、複雑な問題を抱える家庭の状況が子どもたちの育ちにも深刻な影響を及ぼしていることや、これまでに経験したことのない自然災害への備え等課題が山積しています。

こうした中、ありのままの自分に自信が持てず、他者とより良い関係をつくる力が育たなかったり、地域に対する愛着が持てなかったりする等、自尊感情が十分に高められない子どもがいます。また、自己の将来に夢が描けないことから、学習に対する意欲を高めにくい子どももいます。

そこで、子ども支援ネットワークを活用し、地域に暮らす人々との出会いや交流を通じて自尊感情や学習意欲等の向上が図られるよう取組を進めました。

2 課題解決のための主な取組

(1)防災教室（全小中学生）

かつて台風による甚大な被害をうけたことを教訓として整備を進めてきた、各自主防災組織の連携による活動を通じて、子どもの課題解決に取り組みました。学校や保護者、その他の主体等、参加者総勢200人を超える大規模な防災教室となりました。子どもたちは、三角巾を使った応急手当やけが人搬送の体験、災害時炊き出し体験、水消火器体験と照明確保のための発電機運転体験等に取り組みました。こうした活動を通じて、子どもたちは、地域の人々とのつながりを実感しながら、命の尊さや大切さを学ぶとともに、社会参画の意欲も高められる活動となりました。



防災教室（避難所運営訓練）の様子

(2)水仙の球根植え活動及び相野谷中学校区ウォークラリー（全小中学生）

地域や人々の役に立っているという実感を深め、自己効力感や地域を大切に思う気持ち、社会参画の意欲等を高めていきたいと考え、水仙の球根植え活動とウォークラリーに取り組みました。

活動は大里農村環境活動組織の支援を受け、水仙の球根600個を、地域住民の散歩コースの1つである相野川に面した道沿いに植えました。その後、小中学生が縦割り班をつくり、地域住民等も一緒になってウォークラリーを楽しみました。閉会式後、地域住民が子どもたちのために準備したぜんざいを全小中学生でいただきました。



水仙の球根植え、ウォークラリーの様子

◆実践を振り返って

本年度、ネットワークを構築し、地域の特色を活かしながら、大人が子どもたちに積極的に係わることを大切に取り組みました。そのことで、子どもたちは、人と人とのつながりや絆を実感し、地域理解を深めるとともに、地域に対する愛着や帰属意識を高めることができました。また、大人から見守られ、励まされ、褒められることで、自己の良さに気づき、自信を深める等、大きな成果が得られたと考えています。

こうした中で、子どもたちが自己の将来に夢を描き、希望を持って困難や自己の課題と向き合っていけるように、これまでの活動を土台としつつ、工夫を凝らした取組を進めていきたいと考えています。

今後、子どもたちを支える多様な地域人材の発掘にも力を入れながら、子どもたちが地域に「貢献」できる活動の幅を広げたり、自己の「生き方」を掘り下げて考えたりできる活動等を創出できるように取り組んでいきたいと考えています。